



浦島デーの参観ありがとうございました

11月16日(土)の午後、第2回浦島デーを開催しました。5校時、1、2年生は人権・同和学習を行いました。1年生は「人の値うち」(市人権教育教材集「人権」より)、2年生は「たたかいは炎のように」(市人権教育教材集「人権」より)を学習しました。3年生は香川県公立高校入試細目周知会を行いました。ご多忙の中、多数のお家の方にご参観いただきました。ありがとうございました。

6校時は香川大学教育学部教授の坂井聡先生をお迎えし、人権講演会を行いました。全校生と保護者が体育館で「障害があるとはどういうことだろうか」という演題での講演を聞きました。「参加できないことや活動できないことがあることを障害という」等、障害についてお話してくださいました。生徒たちは、真剣に耳を傾けていました。感想の一部を紹介します。

- ・ 障害があるからといって、その人を差別するのはおかしいということが改めてわかりました。坂井先生のお話の中で「障害の害を漢字で書くのは、その人が害なのではなく、その人の周りが害であるから」とおっしゃっていたことが印象に残りました。障害があっても、周りの人が支え合えばいいことがわかりました。
- ・ 障害は、自分の活動や参加の制限ととらえなければならないということがわかりました。「障害はその人自身に問題があるのではなく、周りの環境や私たちによって起こっている」ということを聞いて「なるほど」と思ったし、障害をなくするために環境を整え、私たちが協力してみんなが参加できるようにしなければいけないと思いました。
- ・ 障害の「害」というのは、障害者が悪いのではなく、周りの環境が害をあたえているということがわかりました。自分の力だけで自立するのが難しいときは、自分の力と周りの人の助けで自立することができるということがわかりました。これからは壁のない環境をつくっていきたいと思いました。
- ・ 障害というものは、車椅子の人が障害なのではなく、階段などその人を取り巻く環境に原因があるということがわかりました。障害をなくすためには、周りの環境を変えると同時に、人の心を変えることが一番大切だと思いました。
- ・ 障害者の「害」がひらがなで書かれているのは、障害者でない人の気遣いだと思いますが、逆にそれが心の中で壁をつくっていたのだということに気づきました。「害」はその人自身ではなく、その人を邪魔するものだということに、とても納得しました。全ての人々が公平に生活できるようにするには環境を整えることが大切であるということがわかりました。
- ・ 今まで、障害はその人にあると思っていましたが、環境を整えば、みんな普通に生活できるので、障害は環境にあるということ学びました。一人で抱えこまずに周囲に頼ることもしていきたいです。

